

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 9

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために設立されたのが、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2009年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」（第17回）に、米国のスタンフォード大学教授グレッチェン・C・デイリー博士を選出しました。デイリー博士は、生態系サービスにおける自然資本という概念を定着させ、生物多様性・生態系の保全と、人類の福利と社会発展が両立できることを示す統合的な研究分野と実践の道筋を切り開くという成果をあげられ、コスモス国際賞にふさわしい優れた業績と評価いたしました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行い、2009年度も有意義な成果をあげることができました。

2010年は花の万博開催20周年に当たりますことから、関係機関・団体等のご協力も得ながら、各種記念事業を行っております。20周年を契機に花の万博の理念を見つめ直し、新たな協会活動の展開につなげたいと存じます。

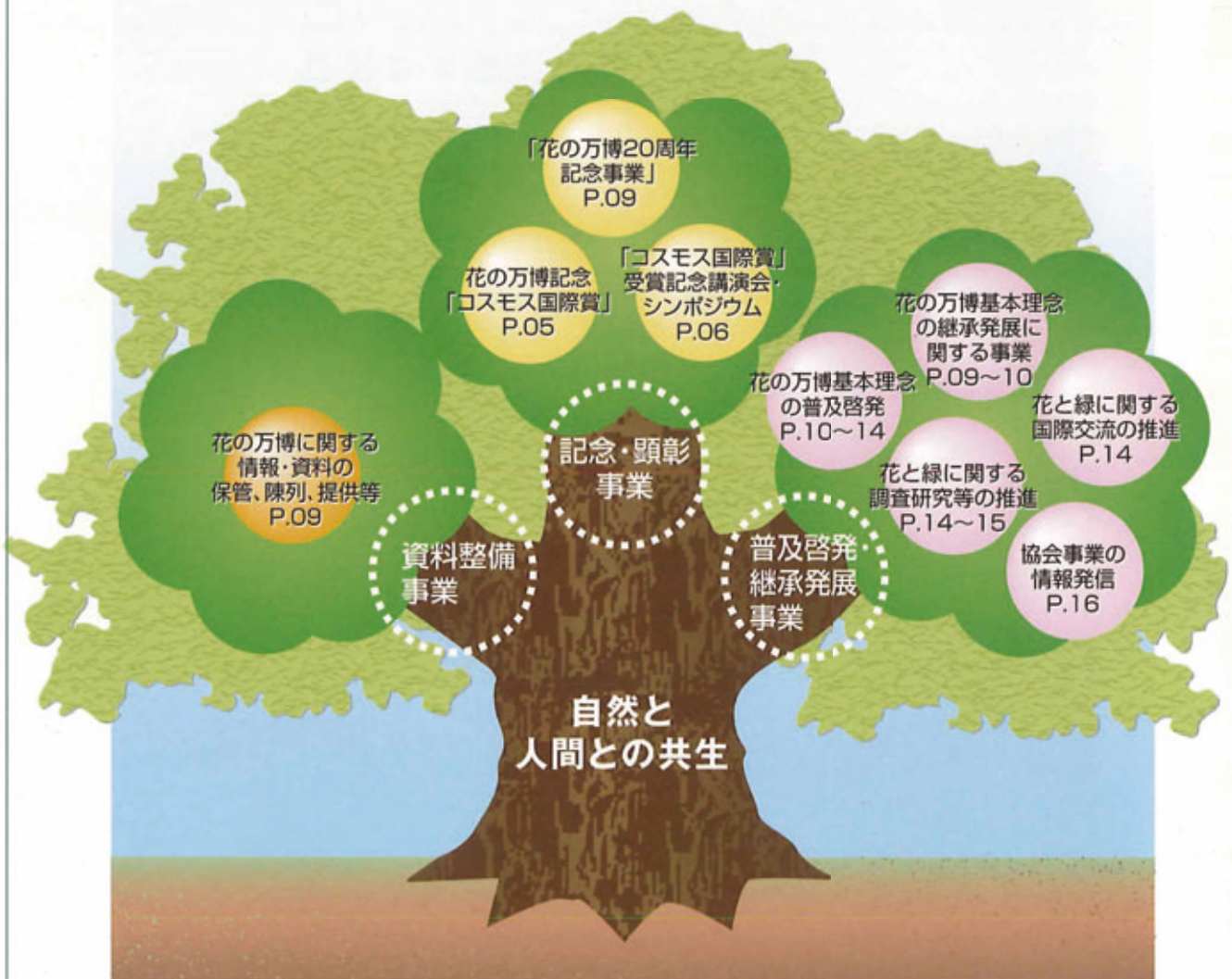
皆様方の当協会に対する更なるご支援とご協力をお願いいたします。

皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者グレッチェン・カーラ・デイリー博士夫妻は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。
(平成21年11月30日 東宮仮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2009年(第17回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者15名(国内11名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成21年(2009年)受賞者の選考・決定等>

- 第1回賞委員会開催(平成20年11月4日)
- 第1回選考委員会開催(平成21年1月26日)
- 第2回・第3回選考委員会開催(平成21年6月1日、6月3日)
- 第4回選考委員会(平成21年6月30日)
- 第2回賞委員会(平成21年6月30日)

2009年コスモス賞受賞者にグレッチェン・C・デイリー博士(スタンフォード大学教授)を決定。

第62回理事会開催(平成21年7月24日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



2009年(第17回)コスモス賞受賞者
グレッチェン・カーラ・デイリー博士
スタンフォード大学教授

デイリー博士は、人類社会が依存する生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、自然資本の持続的な利用のために「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

<平成22年(2010年)受賞者の選考>

- 第1回賞委員会開催(平成21年10月27日)
- 第1回選考委員会開催(平成22年2月1日)

2009年(第17回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約430名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：平成21年10月27日(火) 午後3時～午後5時

場 所：いずみホール【大阪市中央区】

出席者：約430名

次 第：開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 主催者紹介
来賓紹介(駐大阪・神戸米国総領事館エドワード・ドン
総領事、農林水産省 舟山康江大臣政務官、国土交通省
松田紀子大臣官房審議官、小河保之大阪府副知事)
主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場
賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者
挨拶 祝賀演奏 閉会



受賞記念レセプション

日 時：平成21年10月27日(火) 午後5時30分～午後7時

場 所：ホテルニューオータニ大阪【大阪市中央区】

出席者：約400名



記念・
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

コスモス国際賞
受賞記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として2009年受賞者グレッチェン・C・デیلیー博士による講演会を開催しました。

	● 京 都	● 東 京
日 時	平成21年10月24日(土) 午後1時～5時	平成21年10月31日(土) 午後2時～5時
場 所	京都大学百周年記念ホール [京都市左京区]	国連大学ウ・タント国際会議場 [東京都渋谷区]
講 演	テーマ 「自然と調和する経済社会をめざして」～自然資本プロジェクト・これからの環境保全～ 講 師 2009年(第17回)コスモス国際賞受賞者 グレッチェン・C・デیلیー博士	テーマ：生物多様性と生態系の保全と持続的利用 シンポジウム パネリスト 篠原 秀 弘(味の素(株) 環境・安全部長) 深町加津枝(京都大学大学院准教授) 松田 裕 之(横浜国立大学大学院教授) 吉川 弘 之 (独) 科学技術振興機構研究開発戦略 センター長、元東京大学総長) グレッチェン・C・デیلیー博士 コーディネーター 武内 和 彦 (国連大学副学長、東京大学大学院教授)
付 属 事 業	パネリスト等 プレゼンター 今 福 道 夫 (京都大学大学院名誉教授 コスモス国際賞選考専門委員) テーマ：生物多様性を考える ～暮らしを支える命のつながり～ 講 演 奥 山 正 樹(環境省課長補佐) 森 本 幸 裕(京都大学大学院教授) 中 井 克 樹(琵琶湖博物館主任学芸員)	
参 加 者	約280名	約180名
後 援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ大使館	



受賞者
高校派遣

次世代を担う高校生育成のため、昨年度に引き続き受賞者を高校に派遣しました。

日 時	平成21年10月29日(木) 午後3時40分～6時
場 所	東京都立日比谷高等学校[東京都千代田区]
テ ー マ	「自然と調和する経済社会をめざして」 ～自然資本プロジェクト・これからの環境保全～
講 師	2009年(第17回)コスモス国際賞受賞者 グレッチェン・C・デیلیー博士
参 加 者	1年生等 約150名



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成21年1月1日現在

委員長	有馬 朗人	(財)日本科学技術振興財団会長
副委員長	岸本 忠三	大阪大学大学院教授
委員	岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館館長
委員	梅棹 忠夫	国立民族学博物館顧問
委員	グナー・オークスト	スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
委員	黒川 清	前日本学術会議会長
委員	A.H.ザクリ	元国連大学高等研究所所長
委員	鈴木 昭憲	東京大学名誉教授
委員	中根 千枝	日本学士院第一部部長
委員	中村 桂子	JT生命誌研究館館長
委員	日高 敏隆	京都大学名誉教授
委員	オーレ・フィリップソン	博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
委員	サー・ギリアン・フランス	エデン・プロジェクト科学部長
委員	村上陽一郎	国際基督教大学大学院教授

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成21年1月1日現在

委員長	加藤 雅啓	国立科学博物館植物研究部長
副委員長	川勝 平太	静岡文化芸術大学学長
委員	今福 道夫	京都大学大学院名誉教授
委員	餌取 章男	(独)産業技術総合研究所広報アドバイザー
委員	小山 修三	吹田市立博物館館長
委員	武内 和彦	東京大学大学院教授
委員	長谷川眞理子	総合研究大学院大学教授
委員	ハン・クンリ	ユネスコ テヘラン事務所所長
委員	P・ディー・ポーズマ	ワシントン大学教授
委員	松下 和夫	京都大学大学院教授

コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)

ギリアン フランス卿
Sir Ghilleain Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)

ジャック フランソワ バロウ
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)

吉良 龍夫
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新たな分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)

ジョージ ビールズ シャラー
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。『マウンテンゴリラ・生態と行動』『ラストパンダ』など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)

リチャード ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士
1976年に出版された著書『利己的な遺伝子』で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

コスモス国際賞歴代受賞者

- 第6回 平成10年(1998)
ジャレド メイスン ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond
- 
- アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。
-
- 第7回 平成11年(1999)
ウー チェン イー(呉 征鎰)
Dr. Wu Zheng-Yi
- 
- 中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した「中国植物誌」の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。
-
- 第8回 平成12年(2000)
デービッド アッテンボロー卿
Sir David Frederick Attenborough
- 
- イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者
野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。
-
- 第9回 平成13年(2001)
アン ウィストン スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn
- 
- アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。
-
- 第10回 平成14年(2002)
チャールズ ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station
- 
- エクアドル
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。
-
- 第11回 平成15年(2003)
ピーター ハミルトン レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven
- 
- アメリカ・ミズーリ植物園園長
花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。
-
- 第12回 平成16年(2004)
フーリャ カラビラス リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo
- 
- メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授
常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。
-
- 第13回 平成17年(2005)
ダニエル ポーリー
Dr. Daniel Pauly
- 
- カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を取った。
-
- 第14回 平成18年(2006)
ラマン スクマール
Dr. Raman Sukumar
- 
- インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。
-
- 第15回 平成19年(2007)
ジョージナ メアリー メイス
Dr. Georgina Mary Mace
- 
- イギリス・ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)
個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行った。
-
- 第16回 平成20年(2008)
ファン ゲン ホン
Dr. Phan Nguyen Hong
- 
- ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、マングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。中でもカンザー地区のマングローブ林再生・保全は世界で類のないものである。
-
- 第17回 平成21年(2009)
グレッチェン カーラ デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily
- 
- アメリカ・スタンフォード大学教授
デイリー博士は、人類社会が依存する生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、生態学・経済学を統合し、自然資本の持続的な利用のために「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

記念・
顕彰事業

花の万博20周年記念事業

平成22年に国際花と緑の博覧会から20年を迎えることから、20周年記念事業の立案のため企画検討委員会を3回開催し、企画、準備、広報報道活動を行いました。また、花ずきんちゃんをリフォームし、地下鉄鶴見緑地線開通20周年イベントをはじめとする各種イベントでPRを行いました。

花の万博
20周年記念事業
記者発表

花の万博20周年記念事業についての記者発表を行いました。
日 時：平成21年11月25日(水) 午後1時30分～3時
場 所：リーガロイヤルホテル 楓の間【大阪市北区】
参加メディア：22社



フラワー
カーペット
デザイン画募集

花の万博20周年記念事業として企画したフラワーカーペットのデザイン画を全国公募しました。
テ ー マ：自然・命・花や緑・地球環境などをイメージしたもの
募集期間：平成21年12月1日(火)～平成22年1月31日(日)
応募件数：542点
審査委員：^な ^き ^あ ^さ ^ひ ^ら ^こ (洋画家・花の万博咲くやこの花館元館長)
入 賞：優秀賞10点、佳作17点



資料整備
事業

花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

映像による
日本植物誌

平成21年度は「貴重な四国の植物たち」「美しい日本のエビネたち」「日本最初の国立公園『霧島』」の3作品を制作しました。なお、作品は当協会ホームページに掲載しています。



情報等の提供

上海万博及び各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	2件
企業及び個人等	2件

普及啓発・
継承発展
事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

伝統園芸植物の
保存継承と普及
啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状の把握、栽培・育種技術の継承、組織や人材などに関する情報を20年度に収集し、21年度はその結果を踏まえ、報告書を作成しました。また、多くの伝統園芸植物が滅失しつつある現状を踏まえて、その代表的な事例である肥後六花の栽培技術や観賞作法についてビデオ撮影などによる記録を行い普及啓発映像としてDVDにまとめました。



普及啓発・
継承発展
事業

KOSMOS
フォーラム
「21世紀の
新しい環境観」

わが国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成21年度は「21世紀の新しい環境観を探る」を統一テーマとし、3回のフォーラムを開催しました。

第18回 テーマ「海と人」～海の包容力は無限か～
日 時：平成21年7月4日(土) 午後2時～4時30分
場 所：ベルサール九段 [東京都千代田区]

パネリスト：あん・まくどなど (国連大学高等研究所いしかわ・
かなざわオペレーティングユニット所長)
畠山重篤 (京都大学社会連携教授)
西田 睦 (東京大学海洋研究所所長)
山形 俊 男 (東京大学大学院教授)

コーディネーター：秋道 智 彌 (総合地球環境学研究所副所長・教授)
参加者：約230名
後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



第19回 テーマ「大地と人」～地球生命を支える場～
日 時：平成21年9月26日(土) 午後2時～4時30分
場 所：ベルサール飯田橋 [東京都千代田区]

パネリスト：内山 節 (哲学者)
小清水 漸 (京都市立芸術大学教授)
佐藤洋一郎 (総合地球環境学研究所副所長・教授)
武内 和 彦 (国連大学副学長、東京大学大学院教授)

コーディネーター：原田 憲一 (京都造形芸術大学教授)
参加者：約200名
後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



第20回 テーマ「大気と人」～海、大地との関わり～
日 時：平成21年12月13日(日) 午後1時～4時30分
場 所：ベルサール飯田橋 [東京都千代田区]

基調講演：和田英太郎 (京都大学名誉教授)
パネリスト：岩槻 邦 男 (兵庫県立人と自然の博物館館長)
住 明 正 (東京大学教授)
中野不二男 (ノンフィクション作家)
野家 啓一 (東北大学大学院教授)

コーディネーター：川勝 平 太 (静岡県知事)
参加者：約210名
後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



花の万博基本理念の普及啓発

コスモスセミナー

「自然と人間との共生」という理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き実施しているもので、平成21年度は、次のとおり屋外での自然観察(フィールド型)セミナー、講師派遣型セミナーを行いました。



「自然観察教室」
～集まれ昆虫
好きな子供たち
2009～

開催日：平成21年8月3日(月)～8月5日(水)
場 所：関西学術研究都市清滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」[大阪府四條畷市]
講 師：保田 淑 郎 (大阪府立大学名誉教授)
荒谷 邦 雄 (九州大学准教授)
谷 幸 三 (大阪産業大学講師)
南 尚 美 (奈良生物研究会幹事)

参加者：近畿圏の小学5～6年生及び中学1年生 30名
特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団

後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、日本生態学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



小学校講師派遣

テーマ「水中の小さな生物」

日時：平成21年6月16日(火) (3・4時間目)

場所：大阪市立すみれ小学校 [大阪府大阪市]

講師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校5年生 95名



テーマ「環境 (琵琶湖学習、水について私たちにできること)」

日時：平成21年6月22日(月) (3・4時間目)

場所：栗東市立大宝東小学校 [滋賀県栗東市]

講師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校5年生 81名



テーマ「生命：自然と人間との関わりについて」

日時：平成21年7月13日(月) (3・4時間目)

場所：精華町立山田荘小学校 [京都府精華町]

講師：佐藤洋一郎 (総合地球環境学研究所副所長・教授)

参加者：小学校5、6年生 170名



テーマ「秋の虫」

日時：平成21年10月7日(水) (3・4時間目)

場所：生駒市立生駒東小学校 [奈良県生駒市]

講師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校1年生 112名



テーマ「自然と生物」

日時：平成21年10月8日(金) (4時間目)

場所：田辺市立秋津川小学校 [和歌山県田辺市]

講師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)

参加者：小学校1～6年生 34名



テーマ「地球環境と海の生物」

日時：平成21年11月6日(金) (3・4時間目)

場所：姫路市立家島小学校 [兵庫県姫路市]

講師：白山 義久 (京都大学フィールド科学教育センター

海域ステーション瀬戸臨海実験所所長)

参加者：小学5、6年生 90名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第19回(2009年)
全国花のまち
づくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールを次のとおり実施しました。

応募数：1,294件

入賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ24点

表彰式

開催日：平成21年10月23日(金)

場所：法曹会館 [東京都千代田区]

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

[(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花の会、

(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター]



2009年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

ジャパンフラワー
フェスティバル
2009in
東京丸の内

花の万博を契機に、花いっぱい国土、社会並びに生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されているこのフェスティバルを、次のとおり開催しました。

開催日：平成21年4月21日(火)～26日(日)

場所：丸ビル、新丸ビル、行幸地下ギャラリー、丸の内仲通り、丸の内カフェ
入場者：約360,000人

主催：ジャパンフラワーフェスティバル2009in東京丸の内実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花普及センター、東京都ほか〕



◆花の万博開催の地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

第25回 大阪府
都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成21年度は枚方市で開催された第25回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、花の万博20周年記念事業の紹介パネルの展示を行いました。

開催日：平成21年11月8日(日)

場所：国営 淀川河川公園枚方地区 [大阪府枚方市]

来場者：約4,000人

主催：第25回大阪府都市緑化フェア実行委員会

内容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など



緑化ボランティア
のためのネット
ワーク支援業務

大阪府域における緑化を府民協働により推進していくため、緑化ボランティアのネットワークの強化、構築に対して支援しました。

主催：(社)大阪府公園・都市緑化協会



大阪フラワー・
ガーデンショー
2009

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催しました。

開催日：平成21年4月17日(金)～19日(日)

場所：花博記念公園鶴見緑地内
水の館展示ホール [大阪市鶴見区]

主催：大阪フラワー・ガーデンショー2009実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、大阪園芸商組合、大阪園芸サービス協同組合、大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会ほか〕



「世界バラ会議
大阪大会2006」
継承事業

平成18年5月に大阪で開催された「世界バラ会議大阪大会2006」を契機に発足した「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」の成果を周知するために、バラにちなんだイベントを継続的に開催しています。今年は鶴見緑地内咲くやこの花館で「大阪バラ祭2009」を開催し、バラ愛好家と切り花生産者の作品約300点の展示に対して支援しました。

主催：(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会



「花の万博
20周年記念事業」
出展準備業務

大阪府、大阪府がこれまで取り組んできた理念継承事業を「花の万博20周年記念 花・緑フェスタ」において紹介するパネルや映像の作成に対して支援しました。

花と緑のみち
モデル
プロジェクト

大阪府下において、道路や河川などの軸となるみどりや都市公園など拠点となるみどりの連結性を確保する手法を検討するために、大阪府が行う調査に対して支援しました。また、冷涼な海風を大阪市域の都心部まで引き込むことでヒートアイランド現象の緩和を図る「風の道」を形成するために、大阪府が行う基礎調査に対して支援しました。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

都市緑化推進運動 国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4~6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護のつどい」や都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

まちづくり月間 平成21年6月の第27回「まちづくり月間」における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛を行いました。

近畿都市緑化祭 近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成21年度は、京都府で開催された「グリーンサーカス2009」に対して事業の支援、協賛を行いました。

開催日：平成21年10月17日(土)
場 所：淀川河川公園背割堤地区 [京都府八幡市]
来場者：約1,500人
主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会、みどりの5団体合同フォーラム
内 容：園芸教室、自然素材を使ったクラフト教室、都市公園の紹介、パネル展示など



後援等一覧

●催事名(開催時期)	●開催場所	●主 催	●名義
大阪フラワーガーデンショー2009 (H21.4.17~4.19)	花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール (大阪市鶴見区)	「大阪フラワーガーデンショー」実行委員会	会 長 賞
第13回花と緑の街づくりコンクール (H21.4.22~11.30)	大阪府下	社団法人大阪府公園・都市緑化協会	後 援
浜名湖フラワー&ガーデンフェア2009 (H21.5.1~5.10)	浜名湖ガーデンパーク はままつフラワーパーク (静岡県浜松市)	浜名湖フラワー&ガーデンフェア2009実行委員会	後 援
第11回国際バラとガーデニングショー (H21.5.13~5.18)	「西武ドーム」 (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショー組織委員会	後 援
大阪ばら祭2009 (H21.5.15~5.17)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	財団法人大阪市スポーツ・みどり振興協会	後 援
平成21年度「都市緑化月間」 (H21.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協 賛
第46回大阪城菊の祭典 (H21.10.19~11.15)	大阪城公園内 (本丸地区)(大阪市中央区)	大阪市	後 援
大阪ばら展2009 (H21.10.23~10.25)	長居公園 花と緑と自然の 情報センター (大阪市東住吉区)	財団法人大阪市スポーツ・みどり振興協会	後 援
かんさいフラワーショー2009 (H21.11.20~11.22)	花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール (大阪市鶴見区)	かんさいフラワーショー2009実行委員会	後 援
第64回日本おもと名品展 (H21.11.22~11.23)	グランメッセ熊本 (熊本県熊本市)	社団法人日本おもと協会	後 援
淡路夢舞台ラン展2010 (H22.1.23~3.7)	兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の博物館」 (兵庫県淡路市)	株式会社夢舞台	後 援
平成21年度 大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展 (H22.1.6~2.7)	大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市)	財団法人大阪府みどり公社	後 援
長堀鶴見緑地線開業20周年記念行事 (H22.3.1~3.24)	地下鉄長堀鶴見緑地線 京橋駅	大阪市交通局	後 援
「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭 (H22.3.1~5.31)	エキスポ'90みのお記念の森	近畿中国森林管理局	後 援
淡路花博2010「花みどりフェア」	兵庫県立淡路夢舞台公園 国営明石海峡公園	淡路花博10周年記念事業実行委員会	後 援
小品盆栽フェア「第18回春雅展」 (H22.3.26~3.28)	花博記念公園鶴見緑地・水の館ホール (大阪市鶴見区)	春雅展実行委員会	後 援

普及啓発・
継承発展
事業

花と緑に関する国際交流の推進

BIEコスモス賞
への支援

花博記念協会の存在とコスモス国際賞の海外広報に資するため「BIEコスモス賞」を支援しました。
平成21年度は、2010年上海万博において授賞される第2回BIEコスモス賞について、平成21年11月に中国・上海にて、BIEと上海万博協会との協議を行い、具体的な実施方法を決定しました。
これを受けて、平成21年12月から22年2月にかけて全世界に公募が行われ、26ヵ国から52件の応募がありました。その後、これら応募に対して、予備選考作業が行われました。
なお、第2回BIEコスモス賞の授賞式は、2010年上海万博のBIEデーである平成22年10月30日に行われる予定です。賞金は、2万ユーロを予定しています。



花と緑に関する調査研究等の推進

平成22年度
助成対象の決定

博覧会の基本理念の継承発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援するため、平成22年度の助成を次のとおり決定しました。

〈公募〉

公募期間：平成21年10月13日（火）～11月24日（火）
応募件数：67件

〈審査〉

審査期間：平成21年12月～平成22年2月

〈決定〉

審査結果報告をもとに、理事長が助成可否を決定し、平成22年3月23日（火）開催の第64回理事会において報告を行い、助成対象となった19団体に通知しました。

平成21年度
助成対象一覧

平成21年度に実施された19件の事業について助成しました。

● 事業区分	● 助成対象事業名	● 助成対象団体名
調査研究開発	「ゆり」と食をテーマに自然と共生した暮らしから限界集落を考える調査研究事業	中津川むらづくり協議会
	仙台市の植物相調査事業	(財) 仙台市公園緑地協会
	越前町立福井総合植物園植物標本整理事業	(財) 越前町朝日公共施設管理公社
	草木とともに生きる～山里の聞き書き～	(特活) 山里文化研究所
	淀川水系における水生・湿性植物の分布調査	(特活) 大阪自然史センター
	花と緑に関連する生きがい有無別に見た高齢者の生存維持追跡研究	首都大学東京・都市システム専攻・花と緑の生存意義研究会
活動・行催事	重信川汽水域の環境特性理解とヨシ原の再生・保全活動	伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
	竹林の健康診断	(特活) 緑と水の連絡会議
	「第9回世界自然・野生動物映像祭」の併催イベント「花と緑の3D」	(特活) 地球映像ネットワーク
	ランドスケープデザイン学生設計競技2009	(社) ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部
	グリーンカーテン「みんなの和泉5℃さげろ」	(社) 和泉青年会議所
	「自然生態園」における維持管理手法及び生物・環境モニタリング調査結果とりまとめと環境教育活動等の実践	貝塚市立自然遊学館「わくわくクラブ」
	焼畑公園づくり	焼畑による山おこしの会
	亀岡市植生調査	亀岡植物誌研究会
	希少になったササユリ保護、増殖事業	深野ササユリ保存会
	三田花と緑のネットワーク10周年記念事業	三田花と緑のネットワーク
	「花と緑が豊かな心とまちを育む」まちなみ交流会	
	稚内市「最北の桜」桜守事業（コブ病等の撃退事業）	稚内市歴史・まち研究会
	ふるさとの森を守れ！松毛川子どもグリーンクラブの結成	(特活) グラウンドワーク三島
菜の花プロジェクト「醫学校の子供たちと共に！」	熊本グリーンヘルパーの会	

助成事業
成果発表会

平成19年度、20年度の助成事業成果発表会を講演会とともに開催しました。

日 時：平成21年11月21日（土）
場 所：時事通信ホール [東京都中央区]
来場者：約220人

内 容：平成19年度から20年度までの助成対象者の中から7団体が事業の内容やその成果についての発表を行い、併せて「ナチュラル・ガーデン～自然と対話する庭づくり～」と題して、ポール・スミザー氏（ガーデンデザイナー）による講演会を開催しました。

後 援：農林水産省、国土交通省、英国王立園芸協会日本支部ほか13団体

講演会



平成21年度
主な助成対象事業



「自然生態園」における維持管理手法及び生物・環境モニタリング調査結果とりまとめと環境教育活動等の実践



越前町立福井総合植物園
植物標本整理事業



菜の花プロジェクト
「聾学校の子供たちと共に」

※他16事業

花博記念協会助成事業審査会 委員 平成22年3月31日現在

委員長	近藤 公夫	奈良女子大学 名誉教授
副委員長	尼崎 博正	京都造形芸術大学 教授
委員	今西 英雄	JFTD学園日本フラワーカレッジ 校長
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環 教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長村 智司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
委員	服部 明世	大阪芸術大学芸術学部 教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

2009年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

協会事業の情報発信

ホームページ 運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」の各ウェブサイトを実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。また、「花の万博20周年記念事業」のサイトも立ちあげ、記念事業のPRや参加者の募集等に活用しました。



<http://expo90.jp/>



<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>



<http://www.expo90-20memorial.jp/>

コスモス国際賞 パンフレットの 刷新

各受賞者の最新経歴を掲載した冊子を作成しました。



プレスネット ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。

毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」
（特別協力：大阪府立園芸高等学校）

場 所：河南町立大宝小学校 [大阪府河南町]
内 容：バタフライガーデン

場 所：和歌山市立楠見東小学校 [和歌山県和歌山市]
内 容：トンボ池

場 所：高槻市立赤大路小学校 [大阪府高槻市]
内 容：トンボ池

場 所：城陽市立富野小学校 [京都府城陽市]
内 容：コナラの里親

場 所：京都市立蜂ヶ丘中学校 [京都府京都市]
内 容：カブトムシの家

場 所：奈良教育大学附属中学校 [奈良県奈良市]
内 容：マコモビオトープ池



また、生態園の継続的な活用を図るために、生態園の作り方や維持管理の仕方、授業でも活用できるプログラムなどを記した「学校生態園活用マニュアル」（平成21年度作成）を毎日新聞紙上で紹介し、希望する学校へ配布しました。



理事会 2009年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第60回理事会	平成21年 4月1日(水)	協会会議室	役員報酬の件
第61回理事会	平成21年 6月23日(火)	経団連会館	平成20年度事業報告及び収支決算の件 評議員の選任の件
第62回理事会	平成21年 7月24日(金)	ホテルニューオータニ 東京	2009年(第17回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件
第63回理事会	平成21年 9月17日(木)	経団連会館	理事長の選任の件/役員報酬の承認の件 顧問の委嘱の承認の件
第64回理事会	平成22年 3月23日(火)	経団連会館	平成22年度事業計画及び収支予算の件 評議員の選任の件/顧問及び参与の委嘱の件 会長、副会長、理事長等の選任の件/役員報酬改定の件

評議員会 2009年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第31回評議員会	平成21年 4月1日(水)	協会会議室	理事の選任の件
第32回評議員会	平成21年 9月16日(水)	経団連会館	理事の選任の件
第33回評議員会	平成22年 3月11日(木)	千里阪急ホテル	平成22年度事業計画及び収支予算の件 理事の選任の件/監事の選任の件

2009年度決算

貸借対照表総括表 平成22年3月31日現在

単位:円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	195,859,984				195,859,984
未収金	94,646,425			△94,646,425	0
未収収益	2,136,268	85,078,865	9,567,560		96,782,693
有価証券	23,472,000				23,472,000
前払金	7,500				7,500
流動資産合計	316,122,157	85,078,865	9,567,560	△94,646,425	316,122,157
2. 固定資産					
(1)基本財産					
基本財産投資有価証券			800,000,000		800,000,000
基本財産合計			800,000,000		800,000,000
(2)特定資産					
退職給付引当資産	37,700,800				37,700,800
事業推進引当資産	226,513,010				226,513,010
記念基金		8,740,130,000			8,740,130,000
特定資産合計	264,213,810	8,740,130,000			9,004,343,810
(3)その他の固定資産					
什器備品	139,254				139,254
その他の固定資産合計	139,254				139,254
固定資産合計	264,353,064	8,740,130,000	800,000,000		9,804,483,064
資産合計	580,475,221	8,825,208,865	809,567,560	△94,646,425	10,120,605,221

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	43,865,013	85,378,865	9,567,560	△94,646,425	43,865,013
預り金	1,217,446				1,217,446
賞与引当金	5,051,472				5,051,472
流動負債合計	50,133,931	85,078,865	9,567,560	△94,646,425	50,133,931
2. 固定負債					
退職給付引当金	37,700,800				37,700,800
事業推進引当金	370,000,000				370,000,000
固定負債合計	407,700,800				407,700,800
負債合計	457,834,731	85,078,865	9,567,560	△94,646,425	457,834,731
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
寄付金		9,200,000,000	800,000,000		10,000,000,000
特定資産運用益		200,000,000			200,000,000
特定資産評価差額		△659,870,000			△659,870,000
指定正味財産合計		8,740,130,000	800,000,000		9,540,130,000
(うち基本財産への充当額)			(800,000,000)		(800,000,000)
(うち特定資産への充当額)		(8,740,130,000)			(8,740,130,000)
2. 一般正味財産	122,640,490				122,640,490
正味財産合計	122,640,490	8,740,130,000	800,000,000		9,662,770,490
負債及び正味財産合計	580,475,221	8,825,208,865	809,567,560	△94,646,425	10,120,605,221

正味財産増減計算書総括表 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益			39,440,000		39,440,000
基本財産受取利息			39,440,000		39,440,000
特定資産運用益	9,823,762	409,363,003			419,186,765
特定資産受取利息	9,823,762				9,823,762
記念基金受取利息		409,363,003			409,363,003
雑収益	1,555,143				1,555,143
受取利息	308,705				308,705
宿舍使用料収益	480,000				480,000
雑収益	766,438				766,438
他会計からの繰入額	448,803,003			△448,803,003	0
基本財産会計からの繰入額	39,440,000			△39,440,000	0
記念基金会計からの繰入額	409,363,003			△409,363,003	0
特定資産評価益	8,469,010				8,469,010
事業推進引当資産評価益	8,469,010				8,469,010
経常収益計	468,650,918	409,363,003	39,440,000	△448,803,003	468,650,918
(2) 経常費用					
事業費	342,796,639				342,796,639
記念事業費	209,812,197				209,812,197
資料等整備費	2,482,631				2,482,631
普及啓発費	130,501,811				130,501,811
管理費	78,415,947				78,415,947
人件費	49,445,727				49,445,727
管理諸費	28,970,220				28,970,220
有価証券評価損	1,851,000				1,851,000
有価証券評価損	1,851,000				1,851,000
他会計への繰出額		409,363,003	39,440,000	△448,803,003	0
一般会計への繰出額		409,363,003	39,440,000	△448,803,003	0
経常費用計	423,063,586	409,363,003	39,440,000	△448,803,003	423,063,586
当期経常増減額	45,587,332				45,587,332
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計					
(2) 経常外費用					
固定資産除却損	2				2
什器備品除却損	2				2
経常外費用計	2				2
当期経常外増減額	△2				△2
当期一般正味財産増減額	45,587,330				45,587,330
一般正味財産期首残高	77,053,160				77,053,160
一般正味財産期末残高	122,640,490				122,640,490
II 指定正味財産増減の部					
特定資産運用益		409,363,003			409,363,003
記念基金受取利息		409,363,003			409,363,003
特定資産評価損		300,407,000			300,407,000
記念基金投資有価証券評価損		300,407,000			300,407,000
一般正味財産への振替額		409,363,003			409,363,003
一般正味財産への振替額		409,363,003			409,363,003
当期指定正味財産増減額		△300,407,000			△300,407,000
指定正味財産期首残高		9,040,537,000	800,000,000		9,840,537,000
指定正味財産期末残高		8,740,130,000	800,000,000		9,540,130,000
III 正味財産期末残高	122,640,490	8,740,130,000	800,000,000		9,662,770,490

キャッシュ・フロー計算書総括表 平成21年4月1日 から 平成22年3月31日 まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 事業活動によるキャッシュ・フロー					
1. 事業活動収入					
基本財産運用収入			39,440,000		39,440,000
基本財産利息収入			39,440,000		39,440,000
特定資産運用収入	12,432,981	440,169,576			452,602,557
記念基金利息収入		440,169,576			440,169,576
特定資産利息収入	12,432,981				12,432,981
雑収入	1,565,410				1,565,410
受取利息収入	318,972				318,972
宿舍使用料収入	480,000				480,000
雑収入	766,438				766,438
他会計からの繰入金収入	479,609,576			△479,609,576	0
基本財産会計からの繰入金収入	39,440,000			△39,440,000	0
記念基金会計からの繰入金収入	440,169,576			△440,169,576	0
事業活動収入計	493,607,967	440,169,576	39,440,000	△479,609,576	493,607,967
2. 事業活動支出					
記念事業費支出(配賦前)	117,128,104				117,128,104
資料等整備費支出(配賦前)	1,978,560				1,978,560
普及啓発費支出(配賦前)	97,591,585				97,591,585
人件費支出(配賦前)	152,400,028				152,400,028
管理諸費支出(配賦前)	46,043,916				46,043,916
他会計への繰入金支出		440,169,576	39,440,000	△479,609,576	0
一般会計への繰入金支出		440,169,576	39,440,000	△479,609,576	0
事業活動支出計	415,142,193	440,169,576	39,440,000	△479,609,576	415,142,193
事業活動によるキャッシュ・フロー	78,465,774				78,465,774
II 投資活動によるキャッシュ・フロー					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入	1,178,400				1,178,400
退職給付引当資産取崩収入	1,178,400				1,178,400
投資活動収入計	1,178,400				1,178,400
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	4,718,800				4,718,800
退職給付引当資産取得支出	4,718,800				4,718,800
投資活動支出計	4,718,800				4,718,800
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,540,400				△3,540,400
III 財務活動によるキャッシュ・フロー					
財務活動によるキャッシュ・フロー					
IV 現金及び現金同等物の増減額	74,925,374				74,925,374
V 現金及び現金同等物の期首残高	120,934,590				120,934,590
VI 現金及び現金同等物の期末残高	195,859,964				195,859,964

財団の概要（平成22年4月1日現在）

名称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年（平成3年）11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

役員

会長	今井 敬	(社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	佐藤茂雄	大阪商工会議所会頭
理事長	三井康壽	政策研究大学院大学客員教授
専務理事	日尾野興一	常勤
常務理事	大槻憲章	常勤
理事	井手久登	東京大学名誉教授
理事	今西英雄	JFTD学園日本フラーカレッジ校長
理事	小河保之	大阪府副知事
理事	北山啓三	大阪市副市長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良殷	(財)大阪21世紀協会理事長

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

評議員

評議員会長	梅棹忠夫	国立民族学博物館顧問
評議員	青木保之	(財)首都高速道路協会相談役
評議員	麻生 渡	全国知事会会長
評議員	小林庄一郎	関西電力(株)顧問
評議員	近藤公夫	奈良女子大学名誉教授
評議員	佐々木正峰	国立科学博物館顧問
評議員	佐藤四郎	(社)日本造園建設業協会会長
評議員	堂元 光	日本放送協会展大放送局局長
評議員	長倉三郎	元日本学士院長
評議員	橋下 徹	大阪府知事
評議員	畑中孝晴	(財)日本花普及センター顧問
評議員	波多野敬雄	(学)学習院院長
評議員	濱口義廣	(財)日本穀物検定協会顧問
評議員	樋口武男	大阪商工会議所副会頭
評議員	平松邦夫	大阪市長
評議員	松下正幸	(財)松下幸之助花の万博記念財団理事長
評議員	森 民夫	全国市長会会長

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

顧問

大島 靖	(財)大阪国際交流センター名誉顧問
豊蔵 一	
中川和雄	大阪日韓親善協会会長
牧野 徹	(財)日本住宅総合センター理事長

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

参与

泉 眞也	環境プロデューサー
岩槻邦男	兵庫県立人と自然の博物館館長
久野明子	(社)日米協合理事
澤田隆治	(社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
中村桂子	JT生命誌研究館館長
平野侃三	東京農業大学名誉教授
樋口春三	(学)平松学園大分短期大学学長
松延洋平	ジョージタウン大学客員教授
松本 洋	(財)国際文化会館理事
ルイ・サトウ	在仏建築家

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL : 06-6915-4500)
〈理事会・評議員関係、予算・決算、基金運用等〉
- ◆企画部 (TEL : 06-6915-4516)
〈助成事業、伝統園芸植物の普及啓発、花と緑に関する普及啓発等〉
- ◆事業部 (TEL : 06-6915-4513)
〈コスモス国際賞関係、KOSMOSフォーラム、コスモスセミナー関係等〉

2010年度(平成22年度)事業計画

博覧会に関する記念事業

1. 2010年(第18回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2010年(第18回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成22年度は、2010年の受賞者の選考、決定及び2011年(第19回)の選考準備を行います。2010年の受賞者は6月下旬を目途に承認、発表し、10月14日に授賞式を開催します。

2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期：平成22年10月中旬

開催場所：東京と大阪の2カ所

博覧会に関する情報、資料の整理、保存

映像による日本植物誌事業

(PPH：プラント・フォト・ハンティング)

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物動画映像(約850時間、約4,000種)のデータベースが平成17年度に概成しました。平成18年度から、このデータを基に、「サクラソウ」「コウヤマキ」などの作品を制作してきており、平成22年度においても10作品ほどを制作し、PPHの有効活用を図ります。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1. 理念の継承発展に関する調査

◆生物多様性関連施策の実態と効果等に関する調査

生物多様性の保全に向けた内外の動向を踏まえ、国や地方公共団体などが講じている施策や実態について情報を収集し、花の万博の理念である自然と人間との共生の具現化と生物多様性の保全との関係について検討を行います。

2. 理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学の各分野を越えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを引き続き開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を引き続き実施します。

3. 花と緑に関する国際交流の推進

博覧会国際事務局(BIE)と共催で、花の万博の理念を継承し、かつ今後開催される国際博覧会のテーマに沿った先駆的の市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞を、平成22年開催の上海万博において第2回の本賞を授与。

4. 花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成22年度は20回目を迎えます。これを記念し、花のまちづくり功労賞(20周年花博記念賞)を3点、今年度限り設けることとし、あわせて、花のまちづくり努力賞を今年度以降新設することとします。

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

◆花育活動推進事業

花育とは、農林水産省、国土交通省及び文部科学省の指導・支援の下、花き業界や造園業界等の関係団体が主体となって、花や緑を通じて子供たちの情操教育を行うもので、平成20年度から全国花育活動推進協議会に参画して、その推進に努めています。22年度は花育事業のより一層の推進とそれを促進するツールとして花育活動実践マニュアルと花育副読本を作成します。

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。また、平成20年度から新たに、大阪府や大阪市とともに協議会を設けた道路や民有地等で緑のネットワークの構築を図る「花と緑のみちモデルプロジェクト」の推進を引き続き行います。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

5. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を引き続き行います。

また、これまでの助成事業の「成果発表会」を開催します。

6. 情報発信運営に関する業務

◆協会ホームページの運営等

協会が実施する事業への理解促進及び普及のため、協会のホームページ並びに「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書等を作成します。

◆プレスネットワークの構築

コスモス国際賞をはじめ協会事業の認知度を高めるため、プレス等との共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

コスモス国際賞の意義、受賞者の研究業績、授賞式及び記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等の各種情報を収集し、これらを協会ホームページで紹介します。

花の万博20周年記念事業

花の万博の開催から20年目にあたる本年に、花の万博の理念の継承・発展、普及啓発を目的とした記念行催事を行うと共に、平成24年度に20回目の顕彰を迎えるコスモス国際賞の関連事業の調査並びに準備を行う。

①花・緑フェスタ「フラワーカーペット」

4月29日～5月2日(鶴見緑地)

②花・緑フェスタ「水の館展示」

4月29日～5月5日(鶴見緑地)

③花・緑フェスタ「ステージイベント」

5月3日～5日(鶴見緑地)

④花・緑フェスタ「花の万博メモリアル展示&写真展」

4月29日～5月5日(鶴見緑地)

⑤「花の万博の日本画展」

4月14日～26日(大丸心斎橋店)

⑥「花・緑フォーラム」

5月16日(大阪市中央公会堂)

⑦「スタンプラリー」

5月22日～23日(鶴見緑地)

⑧「共生フォーラム」

7月18日(丸ビルホール)

⑨共催催事「FM802 ロックコンサート」

6月13日(大阪城ホール)

⑩コスモス国際賞歴代受賞者フォローアップのための情報収集など



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo90.jp/>

表紙の写真：2009年（第17回）コスモス国際賞授賞式に用いたコサージ・ブートニアで、受賞者グレッチェン・C・テイラー博士の研究フィールドであるオアフ島に咲くオヒア・レファをデザインしました。